

へその緒からコロナ薬

再生医療分野のスタートアップのヒューマンライフコード（東京・千代田、原田雅充社長）は、新型コロナウイルスの重症患者向けの治療薬の開発に着手する。体内の様々な細胞を再生すると期待される間葉系幹細胞をヒトのへその緒から取り出して使う。早ければ10月に臨床試験（治験）を開始する。

同社が開発中の治療薬は、へその緒から取り出した間葉系幹細胞を増殖させたもの。重症の新型コロナウイルス患者に多い「急性呼吸窮迫症候群（AR



へその緒から取り出した間葉系幹細胞を使った治療法の確立を目指している

ヒューマンライフコード 重症者向け、10月治験へ

DS）」の患者を対象とした治療への適用を目指す。10月にも安全性を確認する治験を開始し、2021年3月までに投与を終えて効果を検証する。

一定の効果が認められると判断できれば、自社開発もしくは他社との業務提携の形で治験を続ける。最遅で22年に製造販売承認の申請、23年の承認取得を目指す。

ヒューマンライフコードは17年に設立された。同社の技術は東京大学医科学研究所の長村登紀子准教授の研究に基づく。今回の開発は、日本医療研究開発機構（AMED）が公募する事業にこのほど採択された。約2億円が研究費として支援される。

新型コロナウイルスの治療向けに間葉系幹細胞を使った治療薬の開発は、医薬品開発のヘリオスやロート製薬も手掛けている。